

洞爺高校の今後の方針について

住民説明会を開催

洞爺高校の今後のあり方について、平成21年の洞爺湖町財政健全化計画の中で、「検討課題」とされたことから、教育委員会では、同窓会役員、振興会役員、PTA役員の皆さんの意見を聞き、検討を進めてきました。昨年度には町民対話集会を3回開催し、今年7月にも、町づくりの観点から町内3カ所で同集会を開催してきました。町は、このような対話集会で

の意見を踏まえて、洞爺高校の今後の方針について、「平成26年度以降の募集停止」を決定し、8月27日（洞爺総合センター）、29日（洞爺農業研修センター）とれた、30日（役場防災研修ホール）の3回にわたって、住民説明会を開きました。

洞爺高校は、昭和27年4月に伊達高校の分校（定時制普通科）として開校し、同年11月には旧洞爺村立の普通科高校（定時制）として独立。現在は、全日制の生活ビジネス課のみの単科高校です。

などの実施 現校舎及び体育館は閉校後解体 校舎などの跡地や洞青寮の活用は、地域の町づくりの視点で住民の皆さんと検討していくとの内容が示されました。

このような決定に至った理由として、校舎の老朽化により生徒、教員の安全、安心の確保に行政として責任がもてない。一方全面改築の場合高額な費用が見込まれ、これ以上の負担を住民に強いいることは困難である

地域の中学生の減少や昨今の普通科志向の流れから職業科として今後の増加が見込めない小、中学校の抱えている課題も多く、特に現在町内の小、中学校の耐震化率が40%にとどまっております、これを含めて厳しい財政状況の中で、義務教育を推進していく学校経営に重点的に投資し、小、中学校の学ぶ環境を優先的に整備したいと説明し、住民の皆さんへの理解を求めました。

洞爺総合センターで開かれた住民説明会

各説明会では、真屋町長から決定内容とそれに至った理由についてわかりやすい説明がなされました。町の今後の方針としては、平成25年度の募集を行うが、平成26年度以降の募集は行わない。平成28年3月末で閉校。進路選択の影響を受ける高校進学生徒に対する通学助成

すいとんを食べて平和を誓う

戦争を語りつく集い

終戦を迎えた8月に合わせて、すいとんを食べながら戦時中の家族や子どもたちの暮らしを考える「すいとん食べながら戦争を語りつく集い」（洞爺湖町非核平和のまちづくり実行委員会主催）が、今年も8月26日、あぶたふれ合いセンターで開催され、子どもから高齢者まで幅広い年代の人が、約60人参加しました。

温泉小学校長が読み聞かせ、子どもたちは、絵をくいるように見ていました。引き続きすいとんを食べながら、当時の体験が語られ、子ども時代の疎開や引き揚げなどが話され、平和の大切さが訴えられました。

すいとんについても、体験者は、「当時はほんとにごちそう。ただ今と違って、出汁もとっていないし、こんなに具も入っていない。昔とは全然違う」と現代風すいとんのおいしさを話し、子どもたちも「具たくさんでおいしい」と何杯もおかわりする姿が見受けられました。

集いでは、広島に原爆が落とされた日のことを描いた「まちゃんと」と「まつ黒なおべんとう」の2冊の絵本を、加賀屋真由美洞爺湖



おいしそうにすいとんを食べる子どもたち